

■大阪府生活協同組合連合会・大阪いずみ市民生協・大阪よどがわ市民生協・おおさかパルコープ 共同企画
「能登半島地震 被災地支援ボランティア」報告

おおさかパルコープ理事会室・菅生

日時：2024年10月5日（土）～6日（日）

参加：8名（組合員さん5名、事務局3名：理事会室・佐藤さん、監事会事務局・白石さん、菅生）

活動場所：1日め 輪島市・門前（もんぜん）東小学校

2日め 輪島市・南志見（なじみ）地区

組合員さんが参加されての「能登半島地震災害支援ボランティア」の第1回目の事務局として被災地に訪問、なんとか無事終了しました。

募集当初の活動内容は、9月22日の豪雨被害前に決められたもので、仮設住宅の集会所で、たこ焼きを一緒に楽しく焼いたりお茶しながらお話しするという「サロン活動」を想定していました。

しかし行ってみると、2日間ともサロン活動というより、炊き出し！

あさ7:20、大阪駅に集合



◆1日目は、輪島市門前町。

避難場所になっている小学校の教室前の廊下での活動になりました。

焼いたたこ焼きはおよそ230舟、700個。みなさん喜んでいただいて、その場でみんなで食べて帰られる方、避難されている教室のお部屋に戻って食べられる方も。

お渡しした時に「温かいねえ」と笑顔になられる場面や、あんまり美味しいからと、作り方を教えてほしいとメモを持って来られるかたもいて、酒徳さんが丁寧に教えていました。

92歳のお母さんは、「これ食べたら100まで生きられるわ!」とおっしゃれて、こちらがみんな涙目に。

帰りにはわざわざ出てこられて、お見送りもしてもらいました。



◆2日目は、輪島市南志見（なじみ）地区でたこ焼きを焼きました。

ちょっと行くと海が見えるような、のどかな集落です。しかし地震の復興の兆しが見えかけた最中の豪雨が集落を襲った地域。道路のいたるところに土砂や流木があり、潰れているお宅もあるなか、残っている住民さんが暮らしているお宅の軒先での活動になりました。

活動先を仲介してくださる「災害NGO結」さんは、支援が行き届かない地域に足を運んで丁寧な支援をされていますが、今回私たちに、なかなかボランティアが入らないような地域に入ってほしいとの要請で現地に向かいました。

住民さんは大歓迎してくださり、わざわざ来てくれてありがとうというような言葉もいただきました。そこで復興活動されている工事関係者のみなさんにも、たこ焼きが好評で、およそ70舟350個ほどを提供することができました。



◆帰りの道中で、大阪府連主催の職員ボランティアが活動する「もとやスーパー」に立ち寄り、午後から炊き出しするための調理道具などを引き継ぎました。

伺ったときはちょうどお昼時で、午前中の泥出しを終えた職員の休憩中。中村さんもドロドロになってました。そこへ、もとやスーパーのお母さんが姿を見せられて、豪雨以来の再会に…。中村さんもお母さんも周りの私たちも涙。お母さんはお元気そうでしたが、

「地震より水害の方が怖かった。自動扉のガラスがバーンと割れ、一気に木や水が押し寄せた。逃げるのが 30 秒遅かったら死んでいた。実印も何も持ち出す間がなかったけど、あとからボランティアの方たちが丁寧に探し出してくれたのよ。年末を目処にがんばってみるわ。新しい門出のための試練」と話されていました。

これからも息の長い支援が必要だと感じた 2 日間でした。



お昼ごはんは移動の車中で

金沢駅に到着後、レンタカー1台に乗り合わせて一路能登町まで移動。

能登町にある、NPO 法人リエラの拠点で備品や食材を積み込み。レンタカーの荷台に荷物いっぱい！

門前東小学校に到着



門前東小学校は、地震の時に開設したで避難所。8 月には、仮設住宅などに移られるタイミングで閉鎖されてたところ、今回の豪雨災害でふたたび避難所に。各教室に 1～2 世帯くらいの方が寝泊まりされています。





「これ食べたら 100 まで生きられるわ!」と言っていた
 だいた 92 歳のおかあさんといっしょに



私たちの帰り際に、学校の
 玄関までお見送りをしてく
 ださったおかあさん



2 日目にうかがった、輪島市
 南志見 (なじみ) 地区のお母
 さんから被害の状況をお聞
 きしました
 「となりの奥さんは、玄関を
 出ていたら流されていたか
 もしれん。みんな仮設住宅に
 越してしまっって残っている
 住民は少ないからさびしい
 いね」

宿舎を 8 時に出発して、輪島朝市のように
 ずなど市内を視察しながら 9 時過ぎに到着。
 さっそく、地元で購入したタコを切るなど
 準備スタート。お宅の軒先にあるテー
 ブルや、たこ焼きを焼くための長机などお借
 りして。





かろうじて車が一台通れるように整備した道路の脇がこの日の活動現場。流れ着いた流木や、被害にあったお宅などを片付ける重機の音がするなか、たこ焼きを焼く。



災害 NGO 結の方が、日除けのテントを立ててくれました。
「たこ焼きおかわり！」と言っただけのほど、住民の方や、復興活動されている工事関係者のみなさんに喜んでいただきました。
「また来てね！待ってるよ～」のお声も…。



最後にみんなでたこ焼きポーズで写真を撮らせていただきました

後ろの中央左側の男性が「災害 NGO 結」代表のトムさん
一番右の女性も災害 NGO 結のスタッフさん

【今後開催される組合員さん参加型ボランティアへの引継ぎ】 ※あくまで菅生の私見です

<組合員さん対応関係>

- ①参加者が女性ばかりの場合、事務局が男性2人なのは大丈夫か。
→ 交代のための運転手が必須だが、はじめてボランティアに参加される組合員さんは不安にならないか？
組合員さんを一人減らしてでも、女性の事務局がいたほうが良いのでは…？
- ②8人乗りのレンタカーに8人乗車は、やっぱりしんどい。
→ 金沢から輪島への道中で車の中で片道2時間半、初対面の人との密着度が高い…。
昼食も往復車内だし、ちょっとしんどいのでは…？10人乗りにはできる？

<備品関係>

- ①食材が足りない・ギリギリ
→ 今回、活動先が前日の夜にしか判明しなかったため、相手の規模感が事前に分からなかった。
タコは1日目で無くなって、夜買い出しに。グルメ館輪島店が夜9時まで開いていて助かった。

<日程関係>

- ①2日めの昼食は事務局で先回りして買っておいの方がスムーズ。
→ 当初は午前中の活動後にみんなで買い出しを想定していたが、そんな時間なし。
佐藤さんと白石さんの起点で先に購入しておいてくれたのがありがたかったです。

<活動内容関係>

- ①サロン活動でなく当面「炊き出し」が求められる可能性が高い。
→ いまだ豪雨被害が大きく、サロン活動での需要がなさそう。
その時の「災害NGO結」さんのマッチングにもよるので、この先はどうなるか分からないけど…。
- ②「たこ焼き」は喜ばれる。
→ 温かいものが喜ばれた。昼食としてもオヤツとしても食べられる。
お弁当が続くので、“できあがったばかり”が食べられるいう付加価値もある。
- ③活動先を固定することはできないか。
→ 各単協の活動サイクルが約3週間単位。各単協ごとに担当地域が決まっていたらやりやすい。
事前に規模感も分かり準備しやすい。土地勘もつきやすく引継ぎしやすそう。
相手からすると「また同じ」でなく、「また来てくれた」と思ってもらえるのでは？
親密感も生まれそう。

以上。